

伊吹山から花が消えている中、かろうじて残っていた

伊吹山のイブキジャコウソウ (滋賀県米原市 伊吹山)

イブキジャコウソウの和名は伊吹麝香草で、伊吹山でよく見られる麝香の香りがする植物という意味。草のようだが、低木である。生育地ではカーペット状に広がり、ピンクの花を密に付けて、小さいが魅力的な花である。

「花の山岳写真」を撮影していた時、白馬岳の尾根で見事な群生を見つけた。大形カメラを使い、手前をクローズアップで正確に捉え、背景に山岳風景を写し込むという技法の作品だ。しかし、極端に背丈が低いイブキジャコウソウと、白馬岳の稜線を背景に写し込むのは困難な作業であった。見事な群生を前に、四苦八苦した末、残念ながら、たいした作品はできなかった。この苦い経験が忘れられずにいた。

そして20年の歳月が流れた2019年の夏、伊吹山のシモツケソウ等が鹿の食害で壊滅している状況を取材

するために向かった。花がほとんど無くなっている中、山頂の食堂がある一帯は少し花が保全されていた。人気があるからだろう。そして、遊歩道を進むと、作品のイブキジャコウソウの風景に出逢ったのである。背景は東尾根である。かつてこの尾根にはシモツケソウはもとより、日本一と言われるサラシナショウマの大群生があった。しかし今は笹等に全体が覆われている。

小さな岩にびっしりと張り付くイブキジャコウソウ。このアングルなら、「花の山岳写真」の構図で、ようやくイブキジャコウソウの作品ができると確信した。デジタルカメラが進化して、大形カメラを使わずに、「花の山岳写真」が撮影できる技術を習得していた。小さな手前の花を原寸大に、そして背景の山岳風景を鮮明に撮影できたのである。



イブキジャコウソウ

